

昭和五十九年二月十五日

社団法人 日本雑誌協会

理事長 千葉源藏

第十五期国語審議会

会長 有光次郎殿

かな遣い問題についての要望書

謹啓 貴職ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、当協会は貴審議会における「現代仮名遣い」のご審議に、きわめて強い関心を持ち、以下の通り要望いたしますので、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

「現代かなづかい」は昭和二十一年制定告示以来、若干の不備な点を残しつつも、一般国民の間には定着して現在に至っていると思われ、その大幅な改変は国民の言語生活にいたずらな混乱をもたらすことを危惧いたします。

したがって、改変に当たるとしても、現行の不備な点を修正するにとどめ、問題部分を曖昧にせず、できるだけ明確に示す方向が望ましいと考えます。

審議に当たりますしては、右の趣旨に十分ご留意の上、左記事項につき慎重に検討されることを要望いたします。

一、「現代かなづかい」の原則はかえない。
二、「歴史的かな遣い」をもとに原則をたてることはさける。ただし、理解をたすける上で必要なものについては、「歴史的かな遣い」との対比を示すことが望ましい。

三、「エ列・オ列の長音」・「を・は・へ」については、具体例をなるべく多く示されたい。

なお、漢字の字音については、その字音にしたがう(「衛生・精励」等が「エーサー・サーレー」のように発音されることが多いとしても、字音を無視することは表記の複雑化を招き、混乱を生ずる。)

四、「じ・ぢ」・「ず・づ」については、書き分けの基準を示し、これもなるべく多くの具体例を示されたい。(特に、漢字で表記される地名・人名等の固有名詞のふりがな表記については、語構成意識もからんで判断に迷うものが多い。)

五、促音化する語・発音のゆれのある語等については、何らかの基準を示すか、説明することが必要である。

以上